

經濟學大辭典

Ⅲ

東洋經濟新報社

経済学大辞典（第2版）III

定価 15000 円

昭和55年 9 月30日発行

編集委員代表 熊谷 尚 夫
篠原 三代平

発行者 中井 義 行

発行所 東洋経済新報社

東京都中央区日本橋本石町 1-4

郵便番号 103

電 話 03(270)4111(大代表)

振替口座 東京 3-6518

© 1980 <検印省略> 落丁・乱丁本はお取替えいたします。
Printed in Japan

3533-0103-5214

執筆 者 一 覧

青 木 昌 彦 (京都大学)	梅 村 又 次 (一橋大学)	角 本 良 平 (運輸経済研究センター)
浅 沼 萬 里 (京都大学)	荏 開 津 典 生 (東京大学)	嘉 治 元 郎 (東京大学)
天 野 明 彦 (日本興業銀行)	越 後 和 典 (滋賀大学)	梶 村 秀 樹 (神奈川大学)
天 野 明 弘 (神戸大学)	江 見 康 一 (一橋大学)	勝 田 吉 太 郎 (京都大学)
荒 憲 治 郎 (一橋大学)	遠 藤 輝 明 (横浜国立大学)	加 藤 正 泰 (旭硝子)
安 藤 英 治 (成蹊大学)	大 石 泰 彦 (東京大学)	兼 光 秀 郎 (上智大学)
飯 田 経 夫 (名古屋大学)	大 江 志 乃 夫 (茨城大学)	神 谷 傳 造 (慶応義塾大学)
生 田 豊 朗 (日本エネルギー経済研究所)	大 川 健 治 (日本製紙連合会)	加 茂 雄 三 (青山学院大学)
石 弘 光 (一橋大学)	太 田 誠 (東京都立大学)	川 北 稔 (大阪大学)
石 田 定 夫 (明治大学)	大 谷 龍 造 (福島大学)	川 口 慎 二 (大阪大学)
石 渡 茂 (国際基督教大学)	大 槻 幹 郎 (東北大学)	川 口 弘 (中央大学)
市 石 達 郎 (カーネギー・メロン大学)	大 野 忠 男 (追手門学院大学)	川 鍋 襄 (神戸商科大学)
市 川 洋 (筑波大学)	大 山 道 広 (慶応義塾大学)	川 又 邦 雄 (慶応義塾大学)
市 村 真 一 (京都大学)	大 和 瀬 達 二 (早稲田大学)	木 崎 喜 代 治 (京都大学)
伊 藤 善 市 (東京女子大学)	岡 崎 陽 一 (厚生省人口問題研究所)	木 下 和 夫 (財政研究所)
伊 藤 誠 (東京大学)	岡 田 清 (成城大学)	木 村 憲 二 (愛知大学)
伊 東 光 晴 (千葉大学)	岡 野 行 秀 (東京大学)	木 村 吉 男 (名古屋市立大学)
稲 毛 満 春 (名古屋大学)	岡 本 康 雄 (東京大学)	桐 谷 維 (東京都立大学)
猪 木 武 徳 (大阪大学)	置 塩 信 雄 (神戸大学)	久 我 清 (大阪大学)
今 井 賢 一 (一橋大学)	奥 口 孝 二 (東京都立大学)	日 下 公 人 (日本長期信用銀行)
今 田 高 俊 (東京工業大学)	奥 野 信 宏 (名古屋大学)	楠 本 捷 一 朗 (筑波大学)
岩 崎 秀 夫 (日本興業銀行)	尾 崎 巖 (慶応義塾大学)	工 藤 和 久 (筑波大学)
岩 田 規 久 男 (上智大学)	尾 高 煌 之 助 (一橋大学)	熊 谷 尚 夫 (関西大学)
岩 田 暁 一 (慶応義塾大学)	鬼 木 甫 (大阪大学)	公 文 俊 平 (東京大学)
植 草 益 (東京大学)	鬼 塚 雄 丞 (横浜国立大学)	倉 林 義 正 (一橋大学)
上 野 裕 也 (成蹊大学)	小 野 旭 (一橋大学)	倉 持 俊 一 (法政大学)
内 田 忠 夫 (東京大学)	小 尾 恵 一 郎 (慶応義塾大学)	呉 文 二 (立正大学)
内 田 星 美 (東京経済大学)	貝 塚 啓 明 (東京大学)	小 池 和 男 (名古屋大学)

執筆 者 一 覧

小 泉 進 (大阪大学)	真保潤一郎 (高崎経済大学)	田 中 正 俊 (東京大学)
香 西 泰 (経済企画庁)	菅 沼 啓 祐 (日本鉱業協会)	玉 置 正 美 (亜細亜大学)
神 代 和 欣 (横浜国立大学)	菅 沼 知 允 (産業材料調査研究所)	田 村 茂 (慶応義塾大学)
古 賀 正 則 (大阪市立大学)	杉 原 四 郎 (甲南大学)	田 村 泰 夫 (広島大学)
小 島 清 (一橋大学)	杉 村 芳 美 (甲南大学)	中 鉢 正 美 (慶応義塾大学)
後 藤 晃 (成蹊大学)	杉 山 忠 平 (静岡大学)	長 幸 男 (東京外国語大学)
小 西 唯 雄 (関西学院大学)	鈴木 光 男 (東京工業大学)	筑 井 甚 吉 (大阪大学)
小 林 好 宏 (北海道大学)	鈴木 淑 夫 (日本銀行)	辻 村 江 太 郎 (慶応義塾大学)
小 松 隆 二 (慶応義塾大学)	鈴木 興 太 郎 (京都大学)	土 屋 圭 造 (九州大学)
斎 藤 謹 造 (大阪大学)	住 谷 一 彦 (立教大学)	土 屋 守 章 (東京大学)
斎 藤 精 一 郎 (立教大学)	関 嘉 彦 (早稲田大学)	角 山 栄 (和歌山大学)
斎 藤 光 雄 (神戸大学)	瀬 地 山 敏 (京都大学)	寺 西 重 郎 (一橋大学)
坂 下 昇 (筑波大学)	高 木 新 太 郎 (成蹊大学)	遠 山 嘉 博 (追手門学院大学)
佐 口 卓 (早稲田大学)	高 島 忠 (筑波大学)	鴫 田 忠 彦 (東京都立大学)
佐 久 間 昭 光 (一橋大学)	高 橋 毅 夫 (経済企画庁)	時 子 山 和 彦 (一橋大学)
佐 倉 致 (日本債券信用銀行)	高 橋 裕 (東京大学)	富 永 健 一 (東京大学)
佐 藤 誠 三 郎 (東京大学)	高 本 昇 (関西大学)	富 山 和 夫 (関東学院大学)
佐 藤 経 明 (横浜市立大学)	高 山 憲 之 (武蔵大学)	鳥 居 泰 彦 (慶応義塾大学)
佐 藤 隆 三 (横浜市立大学)	滝 沢 菊 太 郎 (名古屋大学)	直 井 優 (東京大学)
佐 野 陽 子 (慶応義塾大学)	竹 内 宏 (日本長期信用銀行)	中 岡 三 益 (アジア経済研究所)
佐 和 隆 光 (京都大学)	竹 内 幹 敏 (東京都立大学)	中 谷 巖 (大阪大学)
塩 野 谷 祐 一 (一橋大学)	竹 内 靖 雄 (成蹊大学)	永 谷 敬 三 (ブリティッシュ・コロンビア大学)
塩 原 勉 (大阪大学)	武 田 弘 道 (大阪市立大学)	永 原 慶 二 (一橋大学)
宍 戸 駿 太 郎 (筑波大学)	武 野 秀 樹 (九州大学)	中 村 隆 英 (東京大学)
四 手 井 綱 英 (日本モンキーセンター)	田 島 壮 幸 (一橋大学)	中 村 元 (東方学院)
地 主 重 美 (社会保障研究所)	館 龍 一 郎 (東京大学)	中 村 秀 一 郎 (専修大学)
篠 原 三 代 平 (成蹊大学)	伊 達 邦 春 (早稲田大学)	中 村 貢 (東京大学)
柴 田 裕 (名古屋市立大学)	建 元 正 弘 (大阪大学)	中 山 弘 正 (明治学院大学)
島 田 晴 雄 (慶応義塾大学)	田 中 正 司 (横浜市立大学)	夏 目 隆 (神戸大学)
島 野 卓 爾 (学習院大学)	田 中 敏 弘 (関西学院大学)	南 部 鶴 彦 (学習院大学)
新 開 陽 一 (大阪大学)	田 中 秀 夫 (京都大学)	新 飯 田 宏 (横浜国立大学)
新 川 健 三 郎 (東京大学)	田 中 浩 (静岡大学)	新 野 幸 次 郎 (神戸大学)

執筆 者 一 覧

二階堂 副包 (一橋大学)	福岡 正 夫 (慶応義塾大学)	村 田 和 彦 (一橋大学)
西 川 潤 (早稲田大学)	福 地 崇 生 (筑波大学)	村 松 岐 夫 (京都大学)
西 川 俊 作 (慶応義塾大学)	藤 沢 清 作 (新日本製鉄)	室 田 武 (一橋大学)
西 川 徹 (日立製作所)	藤 田 晴 (大阪大学)	望 月 喜 市 (北海道大学)
西 嶋 周 二 (経済企画庁)	藤野正三郎 (一橋大学)	森 岡 清 美 (成城大学)
西 部 邁 (東京大学)	二 木 雄 策 (神戸大学)	森 口 親 司 (京都大学)
西 村 周 三 (横浜国立大学)	本 多 昭 治 (産業材料調査 研究所)	森 田 桐 郎 (東京大学)
根 岸 隆 (東京大学)	本 間 正 明 (大阪大学)	森 本 芳 樹 (九州大学)
野口悠紀雄 (一橋大学)	前 田 勲 男 (通商産業省)	森 本 好 則 (関西学院大学)
能 勢 哲 也 (神戸商科大学)	松 井 透 (東京大学)	諸 田 實 (神奈川大学)
野 田 孜 (岡山大学)	松 原 治 郎 (東京大学)	八木紀一郎 (岡山大学)
野 田 又 夫 (関西学院大学)	丸 尾 直 美 (中央大学)	安 場 保 吉 (京都大学)
野 中 幸 敏 (産業材料調査 研究所)	三 浦 文 夫 (社会保障研究所)	山 下 邦 男 (一橋大学)
橋 本 徹 (関西学院大学)	三 上 隆 三 (和歌山大学)	山 下 重 一 (国学院大学)
畠 中 道 雄 (大阪大学)	水 田 洋 (名古屋大学)	山 下 博 (同志社大学)
花 輪 俊 哉 (一橋大学)	水 野 朝 夫 (中央大学)	山 田 慶 児 (京都大学)
馬 場 啓之助 (社会保障研究所)	水 野 正 一 (名古屋大学)	山 田 三 郎 (東京大学)
馬 場 正 雄 (京都大学)	溝 川 喜 一 (京都大学)	山 田 秀 雄 (一橋大学)
浜 口 恵 俊 (大阪大学)	溝 口 敏 行 (一橋大学)	山 田 浩 之 (京都大学)
浜 田 宏 一 (東京大学)	南 亮 進 (一橋大学)	唯 是 康 彦 (農林水産省農業 総合研究所)
浜 田 文 雅 (慶応義塾大学)	南 塚 信 吾 (津田塾大学)	行 沢 健 三 (京都大学)
早 川 泰 正 (北海道大学)	美 濃 口 武 雄 (一橋大学)	弓 削 達 (東京大学)
林 敏 彦 (神戸商科大学)	蓑 谷 千 風 彦 (慶応義塾大学)	吉 田 裕 (上智大学)
林 嘉 男 (セメント協会)	宮 川 公 男 (一橋大学)	米 原 淳 七 郎 (大阪大学)
速 水 融 (慶応義塾大学)	宮 崎 義 一 (京都大学)	蠟 山 昌 一 (大阪大学)
原 田 金 一 郎 (大阪経済法科大学)	宮 沢 健 一 (一橋大学)	若 林 信 夫 (小樽商科大学)
菱 山 泉 (京都大学)	宮 元 啓 一 (法政大学)	渡 辺 金 一 (一橋大学)
平 井 俊 彦 (京都大学)	宮 本 憲 一 (大阪市立大学)	渡 辺 太 郎 (大阪大学)
平 沢 豊 (東京水産大学)	三 輪 芳 郎 (専修大学)	渡 辺 輝 雄 (東京経済大学)
平 田 清 明 (京都大学)	武 蔵 武 彦 (成城大学)	
深 沢 宏 (一橋大学)	村 上 雅 子 (国際基督教大学)	(五十音順)
深 海 博 明 (慶応義塾大学)	村 上 泰 亮 (東京大学)	

凡 例

I 項目について

- (1) 本辞典は、内容の統一をはかるため、原則として中項目(ないしは準中項目)別に説明した。
- (2) 中項目は、大項目分類にしたがって体系化され、これとともに小項目および用語はその体系中における位置が明らかになるように説明した。
- (3) 各項目は、大項目は「I 資源」、中項目は「1 人口」、小項目は「(1) 人口と経済の関係」、のように示した。

II 本文について

- (1) 説明文は平明を旨とし、漢字は原則として当用漢字を使用した。ただし、専門用語、学術用語、その他必要に応じて当用漢字以外の漢字を使用した。
- (2) かなづかいは現代かなづかいに準拠し、送りかな等についても標準的な表記法を採用した。
- (3) 暦年は原則として西暦であらわし、必要に応じて和暦等を記載した。
- (4) 項目および説明文中の術語につけた原語は、原則として英語表示とし、必要に応じてドイツ語、フランス語等の表示を記載した。
- (5) 説明文でゴシック体で示した用語は、その箇所に定義が示されるか、重要な術語であることをあらわしており、原則として索引(第III巻末)に収録されたものであることを示す。
- (6) 説明文で[→]内に示したものは、その付近全体の内容について参照すべき項目番号および項目名をあらわす。例：[→ III. 1. (2) 限界効用理論]とあれば、大項目「III 市場機構」の中項目「1 効用」の小項目「(2) 限界効用理論」の項を参照すべきことを示す。参照項目が同一大項目(または同一中項目)内にあるときは、大項目番号(または中項目番号)は省略した。
- (7) 著書、論文等からの引用文は「」で囲んで掲げ、その後に()内に参考文献欄の整理番号を[]を付して示し、著書名・論文名等を詳細に知ることができるようにした。また、直接の引用ではなく、その要旨を述べた場合にも、同様に文献欄の整理番号を付した。なお、その際できるだけ引用書のページ等を併記することにした。たとえば、本文で「[43] p. 26, 邦訳 43-44 ページ」とあれば、その中項目の文献[43]の原書 26 ページ、邦訳書 43-44 ページからの引用であることを示す。ただし、引用文は必ずしも邦訳書どおりではない。
- (8) 図表は、できるだけ注および出所を付記し、その根拠を明らかにした。

- (9) 外国地名・人名は、原則として原語の発音にしたがってカタカナで表記したが、慣用化しているものはそれを認めた。ただし、中国、朝鮮等の地名・人名については、本文中は原則として漢字のまま表記し、人名索引でその発音をローマ字で併記した。
- (10) 外国人名については、ファミリー・ネームのみをカタカナで表記し、中項目単位で初出の部分に原語のつづりをフル・ネーム(クリスチャン・ネームとファミリー・ネーム)で示した。例：スミス Adam Smith. なお、ファミリー・ネームが同じで、それだけではまぎらわしい人名については、適宜クリスチャン・ネームの頭文字を添えて混同を避けるようにした。例：J. ミル James Mill, J. S. ミル John Stuart Mill.

III 参考文献について

- (1) 参考文献は、中項目(ないし準中項目)の末尾に、[文献]として一括して掲げた。
- (2) 参考文献の配列順序は、原則として著者名のアルファベット順とし、同一著者の場合には発表順とした。なお、ロシア人名等はローマ字に転読して配列した。
- (3) 参考文献の記載については、単行本の場合には、著(編)者名、書名、発行地(邦語文献の場合は省略)：発行所、(版数)、刊行年の順に記し、邦訳書のある場合はできるだけ併記するようにした。雑誌掲載論文の場合には、筆者名、論文名、掲載誌名、巻数、刊行年の順に記し、単行本に収録された論文についてもこれに準じた。
- (4) 外国語文献では、単行本・雑誌名はイタリック体で示し、論文名は“ ”で囲んで示した。邦語文献では、単行本・雑誌名は『 』で、論文名は「 」で囲んで示した。
- (5) 参考文献欄に用いられたおもな略語は、Vol.=Volume, Bd.=Band, t.=tome, ed.=edition(or edited), hrsg.=herausgegeben, Aufl.=Auflage, изд.=издание, tr.=translated, rep.=reprint, repr.=reprinted, übers.=übersetzt, Ch.=chapter, Abs.=Absatz, p.=page(pp.=pages), S.=Seite, стр.=страница, 等である。

また、おもな外国語雑誌の略語は次のとおりである。

Am. Econ. Rev.=*American Economic Review*
Archiv f. Sozialw. u. Sozialp.=*Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*
Econ. Journ.=*Economic Journal*

Econ. Hist. Rev. = *Economic History Review*

Fed. Res. Bull. = *Federal Reserve Bulletin*

Harvard Business Rev. = *Harvard Business Review*

Jahrb. f. Nat. u. Stat. = *Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik*

Journ. Am. Stat. Assoc. = *Journal of American Statistical Association*

Journ. Econ. Hist. = *Journal of Economic History*

Journ. Econ. Lit. = *Journal of Economic Literature*

Journ. Pol. Econ. = *Journal of Political Economy*

Journ. Pub. Econ. = *Journal of Public Economics*

Journ. Royal Stat. Soc. = *Journal of the Royal Statistical Society*

Oxford Econ. Pap. = *Oxford Economic Papers*

Quart. Journ. Econ. = *Quarterly Journal of Economics*

Rev. Econ. Statist. = *Review of Economic Statistics*

Rev. Econ. & Stat. = *Review of Economics and Statistics*

Rev. Econ. Stud. = *Review of Economic Studies*

Schmollers Jahrb. = *Schmollers Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Volkswirtschaft*

Zeitschr. f. Nationalökon. = *Zeitschrift für Nationalökonomie*

Zeitschr. f. ges. Staatswiss. = *Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft*

Zeitschr. f. Volkswirts. = *Zeitschrift für die Volkswirtschaft*

総 目 次

第 I 卷

I 資 源

- 1 人 口
- 2 自 然 資 源
- 3 エネルギー
- 4 国 富
- 5 技 術

II 経 済 循 環

- 1 国民所得
- 2 産業連関
- 3 資金循環
- 4 国民貸借対照表
- 5 国民経済計算
- 6 社会・人口統計体系
- 7 国民経済バランス

III 市 場 機 構

- 1 効 用
- 2 消費者行動
- 3 生産関数
- 4 費 用
- 5 生産者行動
- 6 市場均衡
- 7 均衡の安定条件
- 8 価格機構と資源配分
- 9 市場の失敗
- 10 一般均衡と部分均衡
- 11 独占・寡占
- 12 消費者行動の心理学

- 13 情報と広告
- 14 消費者主権
- 15 産業組織
- 16 静学と動学
- 17 投 機
- 18 期待と不確実性

IV 経 済 変 動

- 1 消費・貯蓄
- 2 投 資
- 3 所得決定
- 4 乗 数
- 5 集計問題
- 6 マクロ分析とミクロ分析
- 7 成長と循環
- 8 経済成長理論
- 9 技術進歩
- 10 資本理論
- 11 景気循環理論
- 12 インフレーション・デフレーション

V 分 配

- 1 富と所得の分布
- 2 巨視的分配論
- 3 所得の機能的分配
- 4 賃 金
- 5 利子と利潤
- 6 地 代
- 7 混 合 所 得
- 8 キャピタル・ゲイン

VI 経 済 政 策

- 1 経済政策の一般理論
- 2 社会的選択の理論
- 3 政策決定過程
- 4 厚生経済学
- 5 公共経済学
- 6 費用・便益分析
- 7 公共料金政策
- 8 最適成長理論
- 9 経済計画
- 10 総需要管理政策
- 11 所得政策
- 12 独占禁止政策
- 13 産業政策
- 14 法と経済

VII 財 政

- 1 財 政
- 2 租 税
- 3 補 助 金
- 4 公 債
- 5 公共支出
- 6 財政投融资
- 7 財政政策
- 8 財政制度
- 9 地方財政

VIII 金 融

- 1 貨 幣
- 2 通貨制度
- 3 中央銀行
- 4 銀 行
- 5 その他の金融仲介機関
- 6 金融市場
- 7 金 利
- 8 資産選択理論
- 9 金融政策

IX 国 際 経 済

- 1 世界経済
- 2 国際貿易
- 3 貿易政策
- 4 国際投資および援助
- 5 国際収支
- 6 為替レート
- 7 国際通貨
- 8 国際経済機構
- 9 経済統合
- 10 帝国主義
- 11 経済ナショナリズム
- 12 低開発国問題
- 13 多国籍企業
- 14 国際カルテル

第 II 巻

X 労 働

- 1 労働力・就業構造
- 2 労働需給
- 3 労働生産性
- 4 労働市場
- 5 労働過剰経済

- 6 失 業
- 7 賃金構造
- 8 労働運動
- 9 労使関係
- 10 日本的労働慣行
- 11 人的資本

XI 企 業

- 1 企業・企業者
- 2 株式会社と企業形態
- 3 企業組織
- 4 企業目的と企業行動
- 5 企業の意思決定
- 6 企業金融
- 7 企業の集中
- 8 大企業体制
- 9 中小企業
- 10 公 企 業
- 11 企業と政府
- 12 企業と環境

XII 産 業

- 1 産業構造
- 2 工業化パターン
- 3 サービス経済
- 4 農林水産業
- 5 エネルギー産業
- 6 鉄鋼・非鉄金属
- 7 化学工業
- 8 紙・パルプ
- 9 セメント・ガラス
- 10 織 維
- 11 食 料 品
- 12 自 動 車
- 13 造 船
- 14 航 空 機
- 15 建設機械・工作機械
- 16 電 気 機 械
- 17 エレクトロニクス
- 18 精 密 機 器
- 19 建 設
- 20 交通・運輸
- 21 流通産業

- 22 商 社
- 23 産業分野の多様化
- 24 産業連関構造の国際比較

XIII 地 域 と 環 境

- 1 環境の経済学
- 2 公 害
- 3 社会資本
- 4 エコロジー
- 5 地域経済学
- 6 都市経済学
- 7 交通経済学
- 8 過疎問題
- 9 土地・住宅問題

XIV 社会保障と再分配

- 1 分配の不平等
- 2 福祉国家
- 3 所得再分配の理論
- 4 所得再分配政策
- 5 社会 保 障
- 6 社会 保 險
- 7 医療経済学
- 8 慈善の経済学
- 9 貧乏の経済学
- 10 生活水準
- 11 高齢化社会

XV 体 制

- 1 経済体制
- 2 資本主義
- 3 社会主義
- 4 混合経済体制
- 5 計 画 理 論
- 6 経 営 参 加
- 7 労働者自主管理
- 8 産業国有化

総 目 次

XVI 社 会 構 造

- 1 社会構造
- 2 組 織
- 3 社会変動
- 4 産業社会
- 5 所 有

- 6 家族・親族
- 7 社会階層
- 8 権力構造
- 9 地域社会
- 10 国 家
- 11 集合行動
- 12 日本社会論・比較社会論

第 III 卷

XVII 発 展

- 1 経済発展に関する諸学説
- 2 古代の社会と経済
- 3 中世の社会と経済
- 4 土地制度
- 5 人口成長
- 6 産業革命
- 7 西ヨーロッパの経済発展
- 8 ロシア・ソ連の経済発展
- 9 東欧の経済発展
- 10 北アメリカの経済発展
- 11 ラテンアメリカの経済発展
- 12 アフリカの経済発展
- 13 アラブ諸国の経済発展
- 14 インドの経済発展
- 15 東南アジアの経済発展
- 16 東アジアの経済発展
- 17 日本の経済発展
- 18 近代経済成長

- 6 自然法思想
- 7 自由主義
- 8 功利主義
- 9 全体主義
- 10 無政府主義
- 11 社会主義思想
- 12 共産主義思想
- 13 インド・イスラムの社会思想
- 14 中国の社会思想
- 15 日本の経済思想

XIX 経 済 学 説

- 1 経済学方法論史
- 2 重商主義
- 3 重農主義
- 4 アダム・スミス
- 5 リカード以後の古典派経済学
- 6 歴史学派
- 7 マックス・ウェーバー
- 8 マルクスの経済学
- 9 新古典派経済学
- 10 制度学派
- 11 価値学説
- 12 貨幣・信用学説
- 13 景気変動学説
- 14 資本・利子学説
- 15 シェンペーターの経済学

XVIII 社 会 思 想

- 1 古代の社会思想
- 2 中世の社会思想
- 3 ルネサンス・宗教改革の社会思想
- 4 啓蒙思想
- 5 社会契約説

総 目 次

- 16 ケインズの経済学
- 17 現代マルクス経済学 I
- 18 現代マルクス経済学 II
- 19 反正統派経済学

XX 経済分析の方法

- 1 現代経済学の方法
- 2 数理経済学 I
- 3 数理経済学 II
- 4 数理経済学 III
- 5 ゲームの理論

- 6 数理計画法
- 7 時系列分析
- 8 経 済 指 数
- 9 計量経済学 I
- 10 計量経済学 II
- 11 計量経済学 III
- 12 計量経済史
- 13 経 済 統 計

索 引

内 容 目 次

(第 III 卷)

XVII 発 展

1 経済発展に関する諸学説	3
(1) 発展・成長の今日の意味	3
(2) ドイツ歴史学派経済学の発展段階説	3
(3) ウェーバーの比較社会経済史研究	4
(4) マルクス、エンゲルスの発展段階説	5
(5) 経済成長史	8
(6) ヒックスの経済史の理論	8
(7) ポラニー経済人類学の構造概念	9
(8) アナール学派の意味するもの	9
2 古代の社会と経済	11
(1) 農耕と牧畜の起源	11
(2) 古代国家の形成	11
(3) 地中海世界の政治的構造	11
(4) 都市の政治的・社会的・経済的生活	12
(5) 地中海世界の経済構造	13
(6) 商工業の地位と組織	14
(7) 巨大財産の形成	15
(8) 大所領の経営と奴隷制	16
(9) 古代における国家と経済	17
3 中世の社会と経済	19
(1) 封建制	19
(2) 西欧中世の社会と経済	22
4 土地制度	27
(1) 土地制度の歴史的諸形態	27
(2) 封建的土地所有とその解体	29
(3) 経済発展と農業・土地制度	33
5 人口成長	35
(1) 人口増大と人口成長	35
(2) 前工業化社会の人口増大	35
(3) 歴史人口学の成立	36

(4) 人口成長と経済成長	37
(5) 日本の人口成長	39
(6) 人口成長をめぐるモデル	41
6 産業革命	43
6.1 イギリス	43
(1) 産業革命の定義	43
(2) イギリス産業革命の起源	44
(3) イギリス産業革命の展開	45
(4) イギリス産業革命の社会的諸結果	47
(5) 自由貿易体制	49
6.2 その他の諸国	50
(1) 先進工業国への対応としての産業革命	50
(2) 「早期型」産業革命	51
(3) フランスの産業革命	52
(4) ドイツの産業革命	55
7 西ヨーロッパの経済発展	57
7.1 重商主義的進出	57
(1) ヨーロッパの経済発展と対外進出	57
(2) 16世紀ヨーロッパ経済の発展	57
(3) ポルトガルの対外発展	57
(4) スペイン人の新世界開発	58
(5) 16世紀の対外発展がヨーロッパ経済に与えたインパクト	59
(6) 17世紀の「全般的危機」とオランダの台頭	60
(7) オランダの対外進出	60
(8) イギリス商業革命とフランスの対外進出	61
7.2 18, 19世紀の西ヨーロッパ経済	63
(1) 西ヨーロッパの工業化と経済成長	63
(2) イギリスの経済成長	64
(3) フランスの経済成長	67
(4) ドイツの経済成長	70

内 容 目 次

(5) 西ヨーロッパの国際経済関係	72	(3) 独 立 期	146
8 ロシア・ソ連の経済発展	76	13 アラブ諸国の経済発展	153
8.1 革命以前のロシア経済	76	(1) 資本主義市場経済への編入に先行するアラブの社会と経済	153
(1) 農奴解放前のロシア経済	76	(2) 資本主義市場経済への編入	154
(2) 農 奴 解 放	77	(3) 古典的帝国主義期のアラブ社会と経済	155
(3) 改革後の農業	77	(4) 両大戦間期のアラブ社会と経済	157
(4) 改革後の工業	78	(5) 第2次大戦後の経済と社会	158
(5) ストルイビン時代	79	14 インドの経済発展	162
8.2 ソ連の経済発展	80	14.1 古代・中世インドの経済発展	162
(1) 戦時共産主義	80	(1) 先 史 時 代	163
(2) ネ ッ プ	82	(2) 古 代 前 期	163
(3) 集団化・重工業化・スターリン体制	84	(3) 古 代 後 期	164
(4) 戦 争 と 戦 後	87	(4) 中 世 前 期	165
9 東欧の経済発展	89	(5) 中 世 後 期	166
(1) 東欧の封建社会	89	14.2 植民地支配下のインド経済の変動	169
(2) 「再版農奴制」と「チフトリキ」(16～18世紀)	90	(1) 植 民 地 化	169
(3) 東欧の農奴解放	92	(2) 経 済 的 流 出	170
(4) 第1次世界大戦までの資本主義発展	94	(3) 制 度 的 改 変	170
(5) 両大戦間期の資本主義発展	98	(4) 経済的再編成	171
(6) 人民民主主義的変革とその後	102	(5) 経済的自立への条件	172
10 北アメリカの経済発展	107	(6) 世界大戦と大戦間期	172
(1) アメリカ合衆国の経済発展の特徴	107	14.3 独立以後のインドの経済発展	174
(2) アメリカ合衆国の経済発展の段階と過程	108	(1) 経済発展の基礎条件整備の時期	175
(3) カナダの経済発展	115	(2) 国家資本主義的重化学工業化の時期	175
11 ラテンアメリカの経済発展	117	(3) 経済的危機と政治的不安定激化の時期	177
11.1 前資本主義期	117	(4) 国家資本主義の転換期	179
(1) 先スペイン期	117	15 東南アジアの経済発展	179
(2) 植 民 地 期	118	(1) 総 論	179
(3) 過 渡 期	121	(2) 植民地化以前における文化・社会と社会構造	180
11.2 資 本 主 義 期	123	(3) 島嶼地域へのヨーロッパ勢力の到来	183
(1) 1次産品特化期	123	(4) 東南アジア半島部の植民地化	185
(2) 輸入代替工業化期	125	(5) 輸出作物の栽培開発と経済発展	187
(3) 現在——自立への模索	126	(6) 東南アジア諸国の経済発展の課題	195
12 アフリカの経済発展	129		
(1) 前植民地期	130		
(2) 植 民 地 期	136		

16 東アジアの経済発展	197
16.1 中 国	197
(1) 古 代	197
(2) 中 世	198
(3) 近 代	202
(4) 現 代	207
16.2 朝 鮮	214
(1) 前近代の社会発展	214
(2) 資本主義萌芽の内在的展開	215
(3) 日本資本主義による発展の強奪・植民地化	216
(4) 8・15解放後の南北朝鮮	218
17 日本の経済発展	220
17.1 前近代の経済発展	220
(1) 古代経済の展開	220
(2) 中世経済の展開	221
(3) 近世経済の展開	223
17.2 日本の産業革命	225
(1) 日本の産業革命の特徴	225
(2) 国家主導の産業革命	227
(3) 軍事先行の産業革命	229
(4) 日本資本主義の確立	230
17.3 明治維新以降の経済発展	231
(1) 近代経済成長の出発点	231
(2) 産業化の進展——1890～1913年	233
(3) 第1次世界大戦と戦後経済——1914～31年	235
(4) 不況からの回復と戦争——1932～45年	237
(5) 復興と成長——1945～70年	240
(6) 1970 年 代	243
(7) 長期経済発展の統計的概観	244
18 近代経済成長	248
18.1 先 進 国	248
(1) 近代経済成長の意義	248
(2) 初 期 条 件	249
(3) 人口増加と生産高の成長	250
(4) 生産要素投入の増加	252

(5) 構造変化と革新	256
(6) 成 長 の 帰 結	258
18.2 発展途上国	260
(1) 発展途上国	260
(2) 発展途上国の所得水準と就業構造	263
(3) 発展途上国の経済発展と産業構造	265
(4) 工業化の戦略と貿易・雇用	266
(5) 発展途上国の二極分化	267

XVIII 社会思想

1 古代の社会思想	269
(1) 古典期ギリシャの国家(ポリス)	269
(2) コスモスの発想	270
(3) ビュシスとノモス	270
(4) プラトンの社会理論	270
(5) 言 論 の 自 由	271
(6) アリストテレスの社会思想	271
(7) コスモスの市民たち	273
2 中世の社会思想	274
(1) 中世社会思想の概観	275
(2) 中世思想の歴史的展開	275
(3) 社会と統治, 国家と教会	277
(4) 理想的統治と現実・最良の統治	278
(5) 自然法と正義	279
(6) マルシリウスと主権在民論	280
(7) 中世の経済思想	281
3 ルネサンス・宗教改革の社会思想	284
(1) この時期の歴史的状況	284
(2) この時期の思想の主要な流派	285
(3) マキアヴェリ其自然主義的政治論	286
(4) キリスト教的人文主義的政治経済論——エラスムスとトーマス・モア	287
(5) 宗教改革者の社会論——ルターとカ ルヴァン	288
(6) 近代的政治論の先駆——ジョン・ボ ダン	291
4 啓 蒙 思 想	292
(1) 啓蒙思想の概念	292
(2) ルネサンス・宗教改革と啓蒙思想と	

内 容 目 次

の關係……………	293	(3) アナーキズムと現代……………	355
(3) 啓蒙思想の端緒——デカルトとロ ク……………	295	11 社会主義思想 ……………	358
(4) 啓蒙思想の諸相……………	296	(1) 序論——定義および概説……………	358
(5) 啓蒙思想の批判と展開……………	301	(2) 1860年代までの社会主義……………	359
5 社会契約説 ……………	304	(3) 1870年代から第1次大戦までの社会 主義……………	362
(1) 社会契約説の概要……………	304	(4) 両大戦間の社会主義……………	364
(2) 前 史……………	305	(5) 第2次大戦後の社会主義……………	366
(3) 社会契約説の展開……………	307	12 共産主義思想 ……………	370
(4) 社会契約説の衰退……………	309	(1) 定 義……………	370
(5) 結 論 と 展 望……………	311	(2) 私的所有批判としてのコミュニズム の生成過程……………	370
6 自然法思想 ……………	312	(3) コミュニズムとしてのマルクス主義……………	375
(1) 自然法思想の源流……………	313	(4) 史的唯物論とコミュニズム……………	377
(2) キリスト教的自然法……………	314	(5) 現代コミュニズムの思想像——その 形成史的概要……………	378
(3) 近代自然法の成立と展開……………	316	13 インド・イスラムの社会思想 ……………	381
(4) 経済学と自然法……………	319	(1) インドの社会思想……………	381
(5) 自然法の解体と再生……………	321	(2) イスラムの社会思想……………	386
7 自由主義 ……………	323	14 中国の社会思想 ……………	391
(1) 自由主義の伝統……………	323	(1) 社会思想としての中国思想……………	391
(2) 古典的自由主義……………	325	(2) 知識人の社会的機能……………	393
(3) 19世紀における自由主義の展開……………	326	(3) 中国思想の原型的構図……………	394
(4) 福祉国家の思想の成立……………	328	(4) 伝統思想と近代思想……………	398
(5) 現代と自由主義……………	329	15 日本の経済思想 ……………	399
8 功利主義 ……………	331	(1) 幕藩体制下の経済思想の生成……………	399
(1) 功利主義の源流……………	331	(2) 西欧経済学の啓蒙的導入……………	401
(2) ベンサムの思想体系……………	333	(3) 実業の思想の形成……………	402
(3) 晩年のベンサムと哲学的急進派……………	335	(4) ナショナリズムの勃興と帝国主義へ の傾斜……………	403
9 全体主義 ……………	338	(5) 大学の形成、大正リベラリズム、金 解禁論争……………	405
(1) 全体主義の概念……………	338	(6) 戦時下の経済学……………	406
(2) 全体主義の起源と特質……………	339	(7) マルクス主義の展開……………	407
(3) イタリアのファシズム……………	343	(8) ウルトラ・ナショナリズムの土壌—— 農本主義者たち……………	408
(4) ドイツのナチズム……………	344	(9) 戦時統制下の改革思想——テクノク ラートの台頭……………	409
(5) 日本のファシズムとその他のファッ シヨ体制……………	345	(10) 戦後の問題状況……………	410
(6) 反ファシズム闘争……………	346		
(7) 戦後の全体主義……………	346		
10 無政府主義 ……………	348		
(1) 一般的教説……………	348		
(2) 代表的理論家たち……………	349		